



旭地区とは？

豊田市の北部に位置し、矢作川が流れる山間のまち。人口は約 2,800 人、全体の 46% は 65 歳以上。全国水の郷百選にも選ばれ、四季折々には季節の花が山里を彩る。



豊田市旭地区連携 新カリキュラム

体験型 ボランティア実習

今年度から始まった新カリキュラム、「体験型ボランティア実習」。豊田市の旭地区と連携し、ボランティアを通して社会人基礎力を育むとともに、旭地区の活性化にも貢献していく取組みです。家政学部の1年生は必修授業となっており10チームが、そして現代マネジメント学部の3年生はこの実習を選択した2チームが各地域で活動を行いました。初年度の今回は試行錯誤の連続でしたが、学生たちの得るものは大きかったようです。その活動の様子をご紹介します。

愛知学泉大学 各学部長からのメッセージ



家政学部 学部長 安藤 明美 教授

旭地区での活動は、本学の目指す“地域の人材育成”や“まちづくりへの貢献”にまさに合致したカリキュラムです。教室で学んだ専門知識・技能と社会人基礎力を活用した pisa 型学力の向上にも大いに役立つものと期待しています。

現代マネジメント学部 学部長 飯田 博 教授

旭地区は現在、ほぼ限界集落状態となっております。このような過疎・高齢化問題は、現代の日本社会全体の問題と言えるでしょう。今回の実習を通じて、学生には「地域社会を視野に入れたライフスタイルをデザインする能力」を身につけてほしいと思っています。



III 身につける力

建学の精神	真心	努力	奉仕	感謝
社会人基礎力	前に踏み出す力	考え抜く力	チームで働く力	
pisa 型学力	獲得	活用	解決	

※pisa 型学力…知識や技能を実生活のさまざまな場面で直面する課題に活用できる力

III リーダー養成プログラム

初年度での経験を活かし、次年度からはより主体的に活動し、後輩たちのサポートも行います。4年間のボランティア実習を通してリーダースキルを身につけます。

家政学部	未来へつなぐアウトリーチスタートアップ
	未来へつなぐアウトリーチ I・II・III
現代マネジメント学部	現代マネジメント実習 1・2・3・4

体験を通して、はじめて見えてくる 風景がそこにはあった。

神野町の能見地区で「みんなで楽しいことをやろう」という目的で集まり結成された『浅間の会』。平成17年から始まった豊田市の「わくわく事業」に申請し、花壇づくりや農園づくり（笑楽耕Ⅱしようがっこう）、じゃんだらりんロード（散策路）の整備等を中心に活動しています。

今回学生たちは、こちらの会のお手伝いに参加させていただき、畑作業のお手伝いや花壇の手入れ、じゃんだらりんロードに生息する山野草の名札の設置を行いました。ボランティアと言えども教えていただくこ

とばかりで、「ボランティアをする」というより「ボランティアをさせていただく」と感じた学生も多いようです。

また、7月には「蛍火の集い（能見蛍火）」というお祭が開催され、こちらの準備にも参加しました。「蛍火の集い」とは、能見の集落の方々が田んぼやあぜ道、能見神社周辺などにペットボトルを並べ、中に口ウソクの火を灯していくお祭です。イベント当日は、お昼から町中総出のバーベキューのお手伝い、五平餅作り、蛍火の用意をしました。どこへ

行っても快く迎えられ、地元の一員のように接していただき、能見地区の方々の温かさにたくさん触れました。そして、日が暮れる頃には蛍火の点火が始めます。学生たちが作業に夢中になっていると、一緒に点火をしていた地元の方に「周りを見てごらん」と声をかけられました。顔を上げて周りを見渡してみると、そこには「きれいな」や「すごい」などの言葉ではとても言い表せない幻想的な光景が広がっていました。口ウソクの灯が点々と遠くまで続き、写真で見ていたものとは全く違い、いて、実際に体験しないと分からない世界があるんだということに気づかされた」と話す学生もいました。

この実習を通して、ボランティアには相手を気遣うこと、コミュニケーションを大切にすること、大勢の協力によって達成できることがあることを多くの学生が気づきました。実際に、地域のために奉仕活動を行っている『浅間の会』の方々やお祭に協力してくださった地域の皆様と交流することで、真心・努力・奉仕・感謝の心を、なげない場面から感じ取ったはずですよ。この授業で得た気づきや発見、そして出会いは学生たちにとって大きな財産になったことでしょう。

▶▶▶ 蛍火の集い・散策路の整備・畑作業のお手伝い等

『わくわく事業』

豊田市では、地域資源（人、歴史、文化など）を活用し、課題解決に取り組む団体に「補助金」として活動を助成する「わくわく事業」という仕組みを設けています。まちづくりの担い手を育み、地域の活性化を支援します。

せんげ 浅間の会

特色ある地域づくり
能見の里の笑楽耕



1. 約 2,500 個のペットボトルに火が灯され、夏夜の暗闇に灯が浮かび上がります。



2. 蛍火用ペットボトルの加工もお手伝いしました。
3. 一つ一つ火をつけていきます。一度に各地で点火をするので人手が必要です。



4. ニンニク植え。ニンニクの表皮をはがし、種球を一片ずつにわけて植えていきます。
5. 一人ひとり花壇の配置を考えました。花を咲かすのが楽しみです。
6. じゃんだらりんロードに立てた草木の名札。地元の方に名前を覚えていただき作りしました。



担当教員からのコメント

高橋知子 教授、丹羽誠次郎 教授、
森山三千江 教授

学生はこの活動全体を通し、人のために物事を成し遂げる難しさと達成感を経験し、自主的に行動することや相手の立場に立って考えることの難しさを知りました。それは、地域の方の温かさに触れ、助け合いの大切さ、自然のありがたみを実感したからでもあります。社会人基礎力はそれぞれの学生により認識は異なりますが、働きかけ力、実行力、課題発見力、状況把握力など多くの力を伸ばすことができました。特に、ボランティアにも必要な建学の精神に学生自らが気づけた点は大きく、この実習の有意義だったポイントの一つだと考えています。



矢作川河畔林 有間竹林愛護会

竹林の環境整備事業

▶▶▶ 竹林整備のお手伝い・ 地元の方との交流会

放置竹林は他の植物を枯らし、生物の多様性や景観に悪影響を及ぼすなど、日本各地で問題となつていきます。旭地区の有間町でも地元の方々が集まり、望ましい河畔林のあり方を目指して竹林の整備を行つていきます。現代マネジメント学部（学生も）伐採した竹を運びお手伝いや、竹の切り株をノコギリで切り取る作業を行いました。夏の作業は暑く、蚊やマムシに遭遇して戸惑うこともありましたが、自然に触れ合う機会の少ない学生たちにとって、この実習は

竹でつながる 人の輪



1. 竹林愛護会の方々が切った竹を運び集め、まとめて燃やしました。竹は成長が早いのでこまめな手入れが必要です。



2. 実習前には毎回代表の方から注意点を聞きます。



3. 整備した竹林には陽がさし、風が通るようになりました。



4. 学生が書いている実習のブログ。 <http://souda-momo.seesaa.net/>



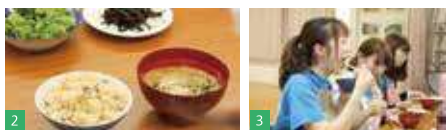
5. 全ての実習が終わってから意見交換会を行いました。

全てのことが新鮮だったようです。愛護会の方々からも、「活動日が楽しみになった」というお声をいただき、お互いに良い影響を与え合えたと感じました。

しかし、初めての土地、人、体験ということもあり、自主性を発揮できなかつたという意見や指摘も見受けられます。地元の方も大学側も手探りでスタートしたこの実習で、『本当に相手の望むこと』を掴むまでがあと一歩でした。どこまで踏み込んで良いのか、勝手な行動で迷惑をかけるのではないかとといった不安はつきものです。しかし、いかにコミュニケーションを取れるかどうか『カギ』となったようです。学生たちの振り返りでも「もっと交流をすべきだった」といった声が多く上がり、次の課題が明確になりました。来年度はさらに一歩踏み込んだ活動に期待が寄せられます。



1. 「鮎めし」づくり。丁寧に箸で身をほぐしました。鮎は「香魚」と呼ばれ、とても良い香りがします。



2. 完成した料理。鮎は夏の魚ということで付け合せはそうめん。
3. 食事会の様子。学生たちは目を輝かせて食事をしていました。



4. 食事会のあとはレシピの確認と、交流会を行いました。
5. 学生たちが制作したレシピの一例。

未来へ残す 郷土料理レシピ

敷島自治区の活動では、地元の方に郷土料理の作り方を教えていただきました。今まで旭地区の郷土料理といえば、各家庭で受け継がれてきたものでした。しかし、少子化や過疎化が進むにつれて伝承する人々が減り、実際に調理できる人の数も少なくなってきました。そこで、家政学部の学生たちが旭地区の郷土料理の作り方を教わり、レシピにまとめて後世に残していく取組みを行うことになりました。

敷島自治区

郷土料理の伝承

▶▶▶ 郷土料理づくり・ レシピの作成

今回レシピを作成したのは、手作りこんにゃく、鮎めし、からすみ、とろろご飯、自然薯の磯辺揚げの5つ。地元の特産を使ったものが多く、旭地区の方には馴染みの料理ばかりですが、学生たちは初めて食べるものも多かったようです。食事会では、講師を務めていただいた伊藤さんに旭地区で収穫される野菜や家庭料理などもお聞きし、交流を深めました。伊藤さんは「旭の郷土料理をレシピにまとめてもらえて嬉しい」と語り、『旭の味』が守られ、未来にも続いていくことに笑顔を見せました。

この実習で、学生たちは旭地区に携わり、過疎化の進む地域で起こる問題や、そこに対して自分たちができることは何かを考えました。『郷土料理のレシピ』という形で、学生たちの活動を旭地区に残せたことは大きな成果です。この取組みで地域社会との関わりを学べたことが、学生たちにとって一番の収穫でした。

参加した学生のコメント 「水車の里 つくば」の活動に参加して（家政学部 管理栄養士専攻 1年）

このボランティア活動の内容を聞いた時、私は否定的でした。なぜなら、私は管理栄養士になるためにこの大学に来たのに、この活動がどう関係してくるのだと疑問ばかり先立っていたからです。活動の中で、「水車の里 つくば」の方々はそれぞれの知識と技術を最大限に活用して協力し合い、目標に向かって活動を進めておられました。そこでは資金や情報不足などの困難にも、今自分たちが持っている中でいかにして目的を達成するかに全力で対応されていました。このような旭地区の方々の姿を見て、今あるこの場所、この時間で、何を考え、どう判断し、行動に移すのが大切なのだと教えていただきました。これは自分が将来、管理栄養士になる上でなくてはならない姿勢だと感じました。多くのことを学ばせていただきありがとうございました。



水車の里 つくば



有志の方々が作った復刻水車。より多くの人に安全に水車を見に来てもらうため、水車小屋へ行く橋の修理をしました。また、道具を修理して発展途上国に送る「道具の会」のお手伝いもさせていただき、本格的なボランティア活動に触れました。

あさひガキ大将養成委員会



子どもたちを対象に、遊びを通じて危険に対応する力や生きる力を育てているこの活動。どうしたら子どもたちに楽しんでもらえるかを考え、流しそうめんを企画したり、安全に遊べる柵やウッドデッキ作りをしました。

小渡自治区



毎年夏に行われる「夢かけ風鈴まつり」。そのお手伝いとしてコケ玉や灯籠作り、盆踊りにも参加しました。また、夏祭りやお月見会等のイベントにも協力させていただき、学生たちのパワーで会場を盛り上げました。

築羽自治区



夏祭りの会場設営、魚の串焼きの下準備や流しそうめんのお手伝いをしました。夜には盆踊りにも参加させていただき、「盆踊りを残していきたい」という地元の方の声を聞き、踊りを教わり輪に混じらせていただきました。

旭GS(減災)ボランティア



旭地区の減災ボランティアに参加し、防災訓練や啓発活動のお手伝いをしました。東海豪雨の被害にあった小渡地区の映像を見せていただき、集会所の窓に「飛散防止フィルム」を貼り安全な避難先づくりもしました。

豊田市社会福祉協議会



普段あまり接することのない高齢者の方との交流で、学生たちは相手のことを思いやって行動する大切さを学びました。学生が企画した演奏会では利用者の方にも歌ってもらい、多くの笑顔を見ることができました。

杉ん工房を作る会



地元の女性たちが中心となって開いたお菓子工房。お店の商品作りのお手伝いをしたり、工房を華やかに装飾したりしました。また、新商品としてかぼちゃとさつまいもの2種類のマフィンを提案し、試食会では高評価をいただきました。

浅野自治区



直売所のお手伝いや稲刈り、芋掘りや歩道の清掃を行いました。様々なことを教えてくれた地元の方に恩返しがしたいと考え、さつまいものお菓子を振舞いました。とても喜んでいただき、感謝と奉仕の精神を身を持って体験しました。

ビューティー惣田会



しだれ桃の育成、鯉のぼりの設置、草刈り等を行いました。秋祭りにも参加させていただき、お神輿と一緒に町内を練り歩き、神社ではダンスを踊り、普段の授業では学べないことをたくさん経験しました。

支所長のお話



豊田市役所 旭支所
支所長 早川正文さん

今回の活動は単位認定がされる授業の一環であり、単なるボランティアを超えた学びの機会を提供頂きたいという話に真剣さを感じ、学生の受け入れを決めました。はじめは専門外の活動に戸惑いを隠せず、活動の意義を理解できない学生さんも多いようですが、回数を重ねるうちにその思いは徐々に変化していったようです。

限られた条件の中で、いかに自分から行動を起こせるか。そこには今後どんな職業についても必要とされる人間力が求められるのだと思います。その意味で1年目の今回は、決して満足のいくものではなかったかも知れませんが、この反省を生かし、来年度からはより積極的に、より知恵を絞って活動を行って頂きたいと思っています。今後の一層の努力に期待しています。